

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	2970101156		
法人名	社会福祉法人 ならのは		
事業所名	楓・メイプルリーフ		
所在地	奈良市神功4丁目25-9 (電話) 0742-70-3100		
評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成20年1月29日		

【情報提供票より】(20年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	30 人	常勤 8人, 非常勤 23人, 常勤換算	14.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	100,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有・無コースがあります。	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	月額50,000 円		

(4) 利用者の概要(1月10日現在)

利用者人数	16 名	男性	5 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	70 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森川診療所・植松クリニックほか
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、交通至便な静かな住宅地の中に穏やかな色調の鉄筋コンクリート造りで新設・開所されています。建物は、和風と洋風の2ユニットがあり、管理者は認知症者の特性を十分研究され、また、専門家の意見を取り入れて、利用者の生活を第一とする環境が整えられています。また、地域住民との交流を進める為に、交流ホールも併設され、開放されています。職員の質の向上への取り組みも積極的になされ、職員も運営理念を深く理解し、質の向上に努められています。利用者は、ゆとりある共用空間や居室で、本人のペースで自由に生活されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>運営理念の掲出や居室への空調設備の設置及び重要事項説明書への苦情・相談窓口の明記等がなされていますが、昼食時の職員のあり方については、検討が望まれません。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義・目的を正しく理解され、評価の実施に当たっては全ての職員が参画され、課題の把握と改善への契機とされています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>幅広いメンバーで構成された運営推進会議が設置され、運営上の諸課題について意見交換がなされています。開催回数も少ないこともあり、その実を挙げるどころ迄至っていないように感じられますので、有効に機能させる取組を期待します。また、地域密着型サービスに制度改正されたことに伴い、行政との関係強化や地域との関りに拡がりが見られます。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会や運営推進会議で意見や要望等を聞く機会とされているほか、家族の訪問時には、担当職員が積極的に話し掛け、希望や意見を聞きだし必要な事項は介護計画に反映させ、サービスに活かす取り組みがなされています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所内に開設されている「地域交流ホール」を活用され、地域住民等との交流に努められているほか、近くの保・幼・小の児童との交流や事業所行事への招待等を通じて地域との繋がりを大切にされています。また、職場体験学習や特別授業の受け入れ等ホーム機能の地域還元に取り組みがなされています。なお、今後は、地域の社会活動にも参加される事を期待します。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の安らぎと生活の安定の確保むけて、必要なこと以外は、「手を出さず」「口をださず」「目を離さず」を介護理念とされ、職員も認知症ケアのプロと自覚され支援されています。		地域密着型サービスに位置づけられたことで、地域との関係がより重視されますので、事業の目的も、この点に留意した運営規定への検討が望まれます。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議やミーティング時に話し合いがなされ、理念の共有化と実践での具現化に努められています。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所内に地域交流ホールがあり、地域住民や各種団体に開放されており、認知症高齢者等への理解促進が図られると共に、事業所内行事への招待や近くの幼・保・小の運動会への参加等による交流に努められています。		事業所や利用者も地域社会の一員と認識されておられることから、職員の勤務に工夫され地域の社会活動にも参加していく取り組みを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義・目的は正しく理解され、自己評価に当たっては、全ての職員の意見を集約し課題の把握に努め、また、外部評価の結果も周知し、問題点があれば改善に努められています。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、行政・自治会代表・家族会代表等幅広いメンバーで構成されて定期的開催されています。会議では、運営上の課題や地域との関り等について意見交換がなされています。		運営推進会議は運営上の課題解決やサービスの質の確保に必要な会議で、開催回数が少ないこともあり、その実を挙げる迄に至っていないように感じられますので、有効に機能させる取り組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスと位置づけられたことから、行政との連携は極めて大切なことと認識され、運営上の諸課題等について、積極的に相談する機会を持つ姿勢が見られます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、一人ひとりの暮らしの様子や健康状態等について手紙で報告されると共に、連絡する必要が生じた場合は適宜する事とされています。また、事業所の状況についても「ならのは便り」を送付されています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者別の担当制を設けられており、家族の訪問時等に担当者が暮らしの様子を伝え、家族等の希望や意見を聞きだし、サービスに活かす取り組みがなされています。また、聴取した内容については、申し送りノートに記録し情報の共有化が図られています。なお、家族会においても、意見等を聞きだす機会に活用されています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	安定した生活を継続する上で、馴染みの関係作りは大切な要素と認識されており、担当が替わる時には十分な配慮がなされる事は勿論、平素から全ての職員が同じ目線で接しられるよう訓練されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、事業所で専門的知識や介護技術等の習得・向上にむけた研修会が開かれており、段階に応じて外部の研修も積極的に受講されています。なお、外部研修受講者は、ミーティングで全職員に報告され、全体のレベルアップに繋がられています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との相互訪問・意見交換等の積極的な交流や地域ケアマネの会議への参加等により、サービスの質の向上に向けた取り組みがなされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用は、本人の納得・安心が前提との考えから、同法人が同一建物内で運営するデイサービスやグループホームのショート利用を活用され、雰囲気や馴染みの関係を構築しスムーズな利用に繋がるように工夫されています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「口をださず」「手をださず」「目をはなさず」を生活支援の基本にされ、一人ひとりの尊重と残存機能を活かしながら協働する等支援する側、される側、という意識をもち共に支え合う場面づくりに配慮されています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>詳細なバックグラウンドの把握と暮らしの中での意向や考え方を基に、生活に活かす取り組みがなされています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、その人らしい暮らしを続けるために作成されるものであることから、全職員が関り話し合い、家族等の意見も参考に調整されています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月、関係者が本人の状態や家族の希望を参考に、随時見直す取り組みがなされています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスの活用や買い物支援・受診時への配慮等家族の状況も踏まえつつ柔軟な対応がなされています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院での受診を基本とされていますが、本人や家族が希望される場合は、従来のかかりつけ医で受診出来る様支援されています。なお、定期的に、内科医・精神科医の往診もなされています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用時に、終末期を迎えた時にホームが最大限出来る支援の範囲について家族に説明されています。なお、ケースに応じて対応の仕方も変わることから、その時点で関係者で方針を確認し合う事とされています。		管理者は、終末期への対応について高い関心を持っておられますが、克服すべき課題も多く明確な方針を確立するまでには至っていません。家族や本人にとって極めて重要な問題でありますので、実現への検討を期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所内の研修で利用者のプライバシーの保護について学習され、暮らしの支援の中でも、常に言動等に注意し尊厳確保に努められています。また、個人情報等については、決められた方法・場所で適切に管理されています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な生活の流れは設定されていますが、取得されている詳細なバックグラウンドを参考に、本人の意向やペースを優先に支援されています。また、体調に配慮して臨機応変に対応がなされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理場がオープンである事から、利用者も食事準備や後片付けに関り穏やかな雰囲気の中で食事を楽しんで居られます。		管理者は、利用者の食事摂取も大切な営みと考え、職員は利用者の食事介助と見守りをする事とされていますが、職員も同じものを食べることで、話題が広がり食に対する意欲の増進に繋がるとも思われますので、運営上の問題もありますが検討を期待します。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴時間帯の設定がありますが、利用者の希望を優先に支援がなされています。なお、毎日入浴が可能な状況を確認されています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴等を把握され、一人ひとりの特技や力量を考え、また、意思を尊重し、暮らしの中で最大限の力が発揮できる場面作りに工夫されています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の重度化傾向にあることから、特定な季節での外出機会がありますが、日常は事業所内のイベント参加程度に留まっているように感じられます。		外出により受ける刺激は、気分転換やストレス発散の機会でもあり、その人らしく暮らし続けるためにも必要な要件と考えますので日常的な外出機会の確保が望まれます。なお、周辺住民へのボランティア要請を計画されていますので、その実現を期待します。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には、しっかりした見守りにより安全面への取り組みがなされており、極力施錠しないこととされています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に地元消防署の指導の下に避難訓練等が実施されており、被災時に備え近くに住む職員に応援・協力体制の整備に努められています。		ユニットの間に防火壁があり、出火場所によっては一方のユニットが一時的に利用者の避難場所となりますが、火災が発生すればまず安全・迅速に屋外へ誘導することを第一と考え、地元住民の応援・協力体制を構築されることが望まれます。また、震災に備え、緊急物資等の備蓄についても検討される事を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の摂取量や水分補給の状況は、介護記録に記入されています。状態に変化が見られる時には、医師と相談され適切な栄養補給管理もなされています。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>設計段階から、利用者の生活に安心と安らぎを感じられるように工夫されており、中庭には季節を感じられるよう花木を植栽されているほか、トイレを多く配置する等ゆとり有る共用空間が確保されています。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が使い慣れた家具・調度品や馴染みのものが持ち込まれ、居心地よい居室整備に努められています。</p>		